

2022年(令和4年)上期 景気動向調査結果

～ 仕入れ単価の上昇、エネルギー価格高騰の影響続く ～

和歌山商工会議所

- 目 的 : 当地域における景気実態を把握するとともに、当商工会議所事業活動の指針とする。
- 調査対象期間 : 2022年1月1日から2022年6月30日(2022年(令和4年)上期)
- 調査実施期間 : 2022年7月5日から2022年7月29日
- 調査方法 : 郵送によるアンケート方式
- 調査対象 : 常議員・議員・部会副部会長・女性会・青年部・商工振興委員 530事業所
- 回答数 : 回収数 176 (回収率 33.2%)

業種		従業員数					
		0～5人	6～20人	21～50人	51～100人	101人以上	合計
非製造業	製造業	6	15	10	12	13	56
	建設業	5	6	3	2	4	20
	小売業	11	5	2	0	3	21
	卸売業	5	7	5	4	1	22
	サービス業	14	7	9	5	5	40
	その他業	4	2	1	2	8	17
合 計		45	42	30	25	34	176

● 概 要

2022年上期(1月～6月)の景況感は、主要指標である業況、売上、採算の各DI値を見ると、製造業では大幅に悪化しており、売上DIは増加が減少を上回っているにもかかわらず、採算DIは悪化が好転を上回るなど、売上が利益に繋がらない状況が進んでいる。その要因として「原材料価格、エネルギー価格の高騰」や「配送コストの増加」等の回答が多く挙げられた。非製造業では、コロナ感染症の影響に左右されるサービス業、その他業は大幅に好転しているが、建設業では採算DIは上向きであるが悪化が好転を大きく上回っているなど、業種によってまだら模様で、非製造業でも製造業同様「原材料価格、エネルギー価格の高騰」や「配送コストの増加」等が悪化要因として挙げられた。

直面する課題(10ページ)として、製造業は、「仕入・原材料単価の上昇」が最も多く、次いで「価格への転嫁難」が前期同様に課題として挙げられ、今期新たに「燃料費(電気料金を含む)の高騰」が課題の上位に挙げられた。非製造業全体では、「仕入・原材料単価の上昇」「従業員・熟練技術者の確保難」「コロナの影響」となり、「コロナの影響」の順位が下がった。特に、卸売業の課題では、「仕入・原材料単価の上昇」「需要の停滞」「価格への転嫁難」「従業員・熟練技術者の確保難」が上位として挙げられ、今期「コロナの影響」が上位から初めて姿を消した。

先行きについては、製造業の景況感は、「仕入単価、材料費の高騰」等により悪化の見通しが示され、非製造業は「海外の景気回復」や「コロナ禍の段階的収束想定」等により改善の見通しとなり、今後への期待感が示されたものの、製造業、非製造業ともに、コロナ第7波の感染者数の急激な拡大に対する警戒感に加え、「仕入単価、材料費の高騰による収益の悪化」、「エネルギー単価の上昇」、「部品等の納期遅延や価格転嫁難」等、懸念材料が払拭できない状況であり、今後も新型コロナウイルス感染症の影響と世界情勢について、注視していく必要がある。

今回追加した調査項目の原油高、原材料高、物価高、円安の影響について(11ページ)、影響があると回答した事業所は製造業で91%、非製造業で71%となった。その対策については、製造業、非製造業とも価格転嫁が最も多く、次いで、経費削減(人件費以外)となった。

皆様から寄せられた企業、業界の取組み(抜粋)

● 製造業

- ・SDGs
- ・ESG経営の推進
- ・新ビジネス展開
- ・技能向上、人材育成、人材確保
- ・デジタル化(DX)の推進
- ・製品の値上げ、価格転嫁

● 非製造業

- ・SDGs
- ・技能向上、人材育成、人材確保
- ・生産性の向上
- ・デジタル化(DX)の推進
- ・既存事業の拡大、新規事業への参入
- ・製品の値上げ、価格転嫁

※「DI値」とは

デフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、景気動向を示す指標。「好転(やや好転を含む)」、「増加(やや増加を含む)」、「上昇(やや上昇を含む)」したとする企業割合から、「悪化(やや悪化を含む)」、「減少(やや減少を含む)」、「低下(やや低下を含む)」したとする企業割合を差引いた値。

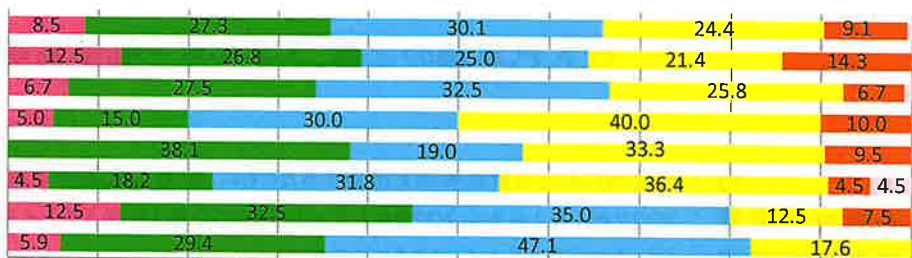
【業況DI値】

今期(2022年1月～6月)のDI値

全業種	(今期 2.3 前期比 ▲6.5)
製造業	(今期 3.6 前期比 ▲32.6)
非製造業	(今期 1.7 前期比 4.6)
建設業	(今期 ▲30.0 前期比 ▲20.0)
小売業	(今期 ▲4.8 前期比 11.9)
卸売業	(今期 ▲18.2 前期比 7.7)
サービス業	(今期 25.0 前期比 0.0)
その他業	(今期 17.6 前期比 17.6)

(業況)

(単位: %)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■好転 ■やや好転 ■不変 ■やや悪化 ■悪化 ■無回答

今期(2022年1月～6月)の状況

製造業で3.6(前期比▲32.6)、非製造業で1.7(前期比4.6)、全業種で2.3(前期比▲6.5)となり、製造業ではプラス値ではあるものの前期比では大幅にマイナスとなり悪化、非製造業では全体としてややプラスとなった。

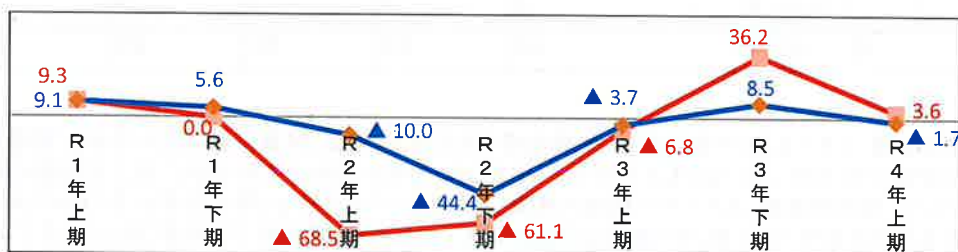
製造業では「コロナの影響」が減少したことにより好転している事業所もあるが、「原材料価格の高騰」「部品の入荷難」や「ウクライナ情勢」等の要因により、前期より大幅な悪化となった。非製造業を業種別にみると建設業、小売業、卸売業では、「製品の納期遅延、製品不足」、「仕入単価、材料費の高騰や原油高」に加え、依然として「新型コロナウイルス感染症による影響」等の理由が悪化要因として挙げられた一方、サービス業、その他業では、「新型コロナ第6波の収束」等により好転し、非製造業全体としては、プラスに転じた。

※前期比とは、前回調査(令和3年12月実施)のDI値と今期を比較した増減です。

DI値の推移

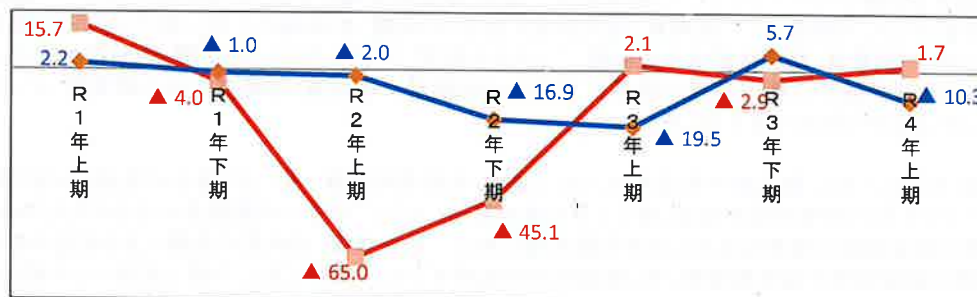
製造業

—●— 今期のDI値
—●— 前期調査時点での今期見通し



非製造業

—●— 今期のDI値
—●— 前期調査時点での今期見通し

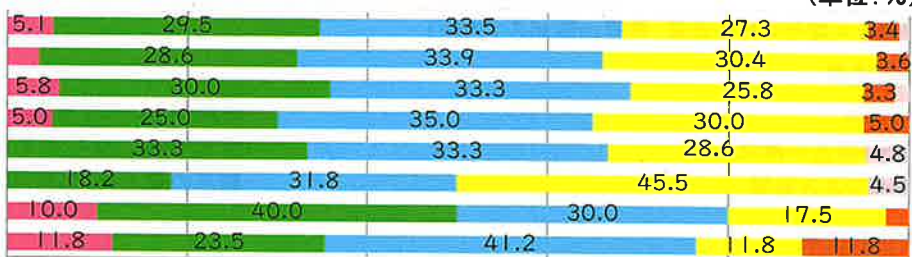


来期(2022年7月～12月)の見通しDI値

全業種	(見通し 4.0 今期比 1.7)
製造業	(見通し ▲1.8 今期比 ▲5.4)
非製造業	(見通し 6.7 今期比 5.0)
建設業	(見通し ▲5.0 今期比 25.0)
小売業	(見通し 4.8 今期比 9.5)
卸売業	(見通し ▲27.3 今期比 ▲9.1)
サービス業	(見通し 30.0 今期比 5.0)
その他業	(見通し 11.8 今期比 ▲5.9)

(業況)

(単位: %)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■好転 ■やや好転 ■不変 ■やや悪化 ■悪化 ■無回答

今期と比較した来期(2022年7月～12月)の見通し

今期と比較した来期見通しDI値は、製造業では▲5.4ポイント悪化の▲1.8、非製造業では5.0ポイント改善の6.7、全業種で1.7ポイント改善の4.0と見通している。製造業の悪化、やや悪化要因として、「仕入単価、材料費の高騰」、「コロナ禍再燃の不安」、「先行き不透明」等が挙げられた。非製造業の改善要因としては、「海外の景気回復」や「コロナ禍の段階的収束想定」「コロナの影響は残るが、経済活動の活発化予想」等、今後の期待感が挙げられた。

【売上DI値】

今期(2022年1月~6月)のDI値

(売上)

(単位:%)

全業種	(今期 16.5 前期比 2.6)
製造業	(今期 21.4 前期比 ▲20.0)
非製造業	(今期 14.2 前期比 12.0)
建設業	(今期 0.0 前期比 0.0)
小売業	(今期 ▲14.3 前期比 ▲4.3)
卸売業	(今期 9.1 前期比 27.6)
サービス業	(今期 37.5 前期比 15.0)
その他業	(今期 17.6 前期比 7.1)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■増加 ■やや増加 ■不変 ■やや減少 ■減少 ■無回答

今期(2022年1月~6月)の状況

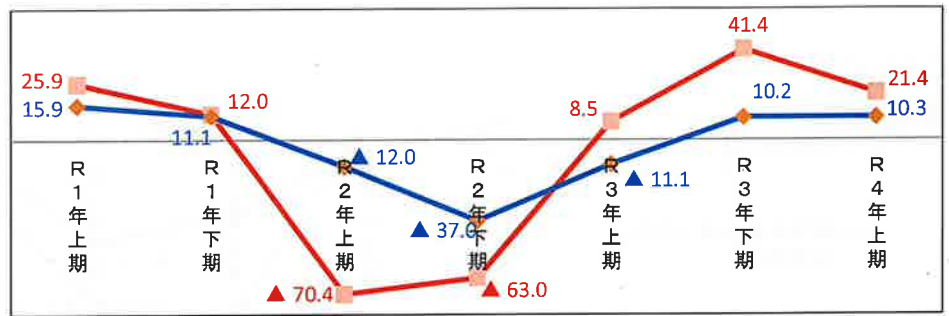
売上DI値は、製造業で21.4(前期比▲20.0)、非製造業で14.2(前期比12.0)、全業種で16.5(前期比2.6)となり、製造業、非製造業ともプラスとなった。増加、やや増加要因としては、製造業、非製造業とも仕入価格の上昇分を転嫁したことによる売上の増加が多く挙げられた。非製造業の中で小売業のみ前期比、今期ともマイナスの悪化となったが、減少、やや減少要因として、「製品不足」や「2月のまん延防止等重点措置発表による来店顧客の減少、消費の落込み」等が挙げられた。

※前期比とは、前回調査(令和3年12月実施)のDI値と今期を比較した増減です。

DI値の推移

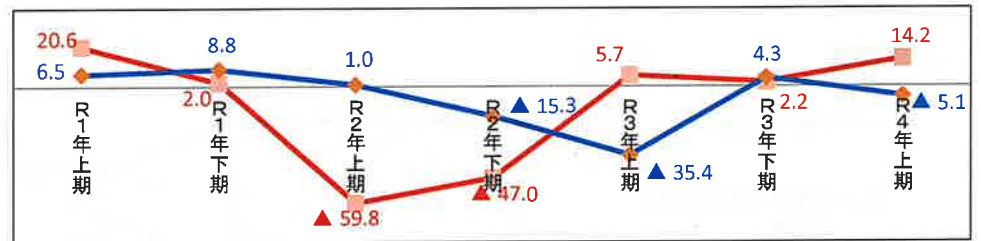
製造業

■実際のDI値
■前期調査時点での今期見通し



非製造業

■実際のDI値
■前期調査時点での今期見通し



来期(2022年7月~12月)の見通しDI値

(売上)

(単位:%)

全業種	(見通し 19.3 今期比 2.8)
製造業	(見通し 21.4 今期比 0.0)
非製造業	(見通し 18.3 今期比 4.2)
建設業	(見通し 10.0 今期比 10.0)
小売業	(見通し 9.5 今期比 23.8)
卸売業	(見通し 4.5 今期比 ▲4.5)
サービス業	(見通し 32.5 今期比 ▲5.0)
その他業	(見通し 23.5 今期比 5.9)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■増加 ■やや増加 ■不変 ■やや減少 ■減少 ■無回答

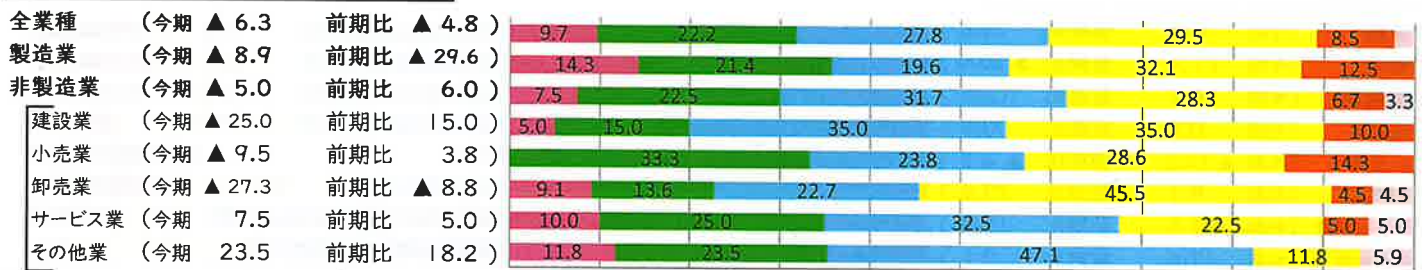
今期と比較した来期(2022年7月~12月)の見通し

今期と比較した来期の見通しDI値は、製造業で21.4、非製造業で4.2ポイント改善の18.3、全業種で2.8ポイント改善の19.3と見通している。全業種で来期はプラスと見通しており、今期と同様に、「仕入価格の上昇分を転嫁することによる売上の増加」や業況見通しと同様に、「海外の景気回復」や「コロナ禍の段階的収束想定」「コロナの影響は残るが、経済活動の活発化予想」等、今後への期待感が挙げられた。

今期(2022年1月~6月)のDI値

(採算)

(単位:%)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 好転 ■ やや好転 ■ 不変 ■ やや悪化 ■ 悪化 ■ 無回答

今期(2022年1月~6月)の状況

採算DI値は、製造業で▲8.9(前期比▲29.6)、非製造業で▲5.0(前期比6.0)、全業種で▲6.3(前期比▲4.8)となった。製造業、非製造業ともマイナスとなり、悪化、やや悪化した要因として、「原材料価格、エネルギー価格の高騰」や「配送コストの増加」等により、売上は増加するも採算は悪化との回答が多く挙げられ、また依然として新型コロナウイルス感染拡大による影響やコロナの長期化が悪化要因との回答も見受けられた。

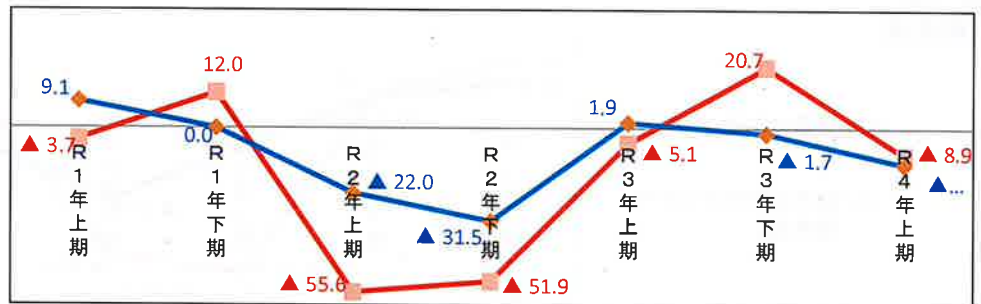
※前期比とは、前回調査(令和3年12月実施)のDI値と今期を比較した増減です。

DI値の推移

製造業

■ 実際のDI値

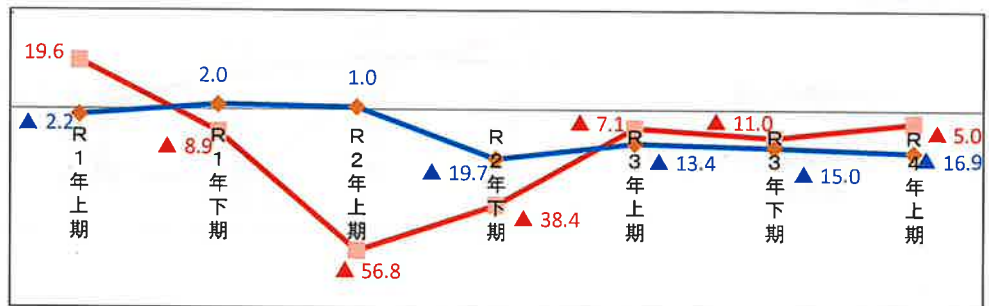
● 前期調査時点での今期見通し



非製造業

■ 実際のDI値

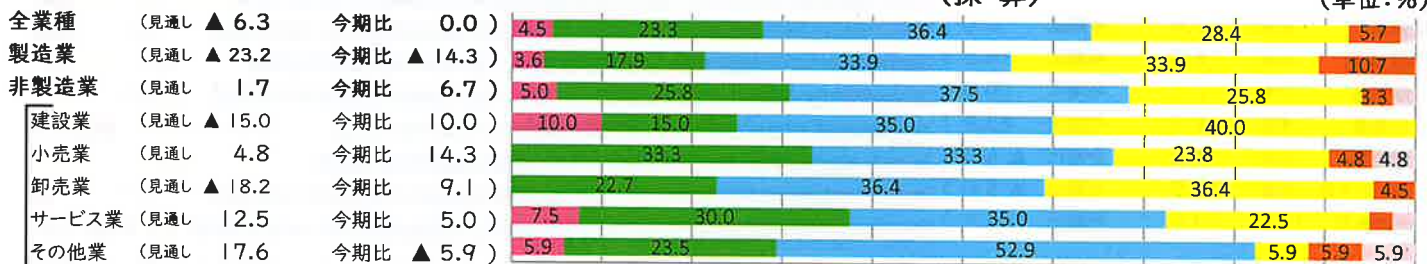
● 前期調査時点での今期見通し



来期(2022年7月~12月)の見通しDI値

(採算)

(単位:%)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 好転 ■ やや好転 ■ 不変 ■ やや悪化 ■ 悪化 ■ 無回答

今期と比較した来期(2022年7月~12月)の見通し

今期と比較した来期見通しDI値は、製造業で▲14.3ポイント悪化の▲23.2、非製造業で6.7ポイント改善の1.7、全業種で▲6.3と見通している。製造業では、来期見通しDI値は依然としてマイナス域にとどまっており、「価格転嫁額を上回る仕入価格、原材料費の高騰」「円安」「コロナ禍の再燃の不安」等を理由として、採算の回復については、厳しい見通しとなった。非製造業の来期見通しDI値は、2年ぶりにプラスとなり、業況、売上見通しと同様理由により「価格転嫁(値上げ)効果」や「海外景気の回復による受注増」「コロナ禍の段階的収束」等、改善が期待される結果となった。

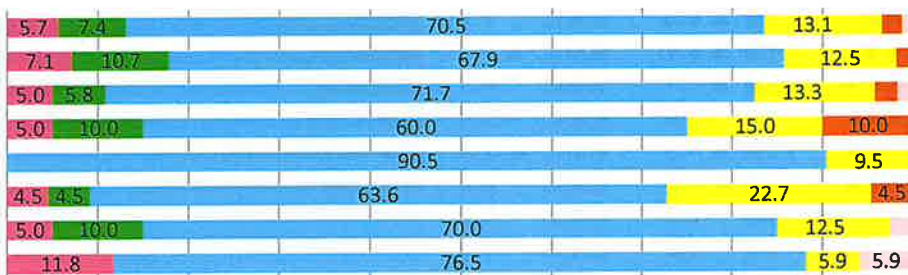
【 資金繰りDI値 】

今期(2022年1月～6月)のDI値

全業種	(今期 ▲ 2.3	前期比 ▲ 0.2)
製造業	(今期 3.6	前期比 ▲ 5.0)
非製造業	(今期 ▲ 5.0	前期比 1.6)
建設業	(今期 ▲ 10.0	前期比 ▲ 15.0)
小売業	(今期 ▲ 9.5	前期比 ▲ 2.8)
卸売業	(今期 ▲ 18.2	前期比 0.3)
サービス業	(今期 2.5	前期比 12.5)
その他業	(今期 5.9	前期比 0.6)

(資金繰り)

(単位:%)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 好転 ■ やや好転 ■ 不変 ■ やや悪化 ■ 悪化 ■ 無回答

今期(2022年1月～6月)の状況

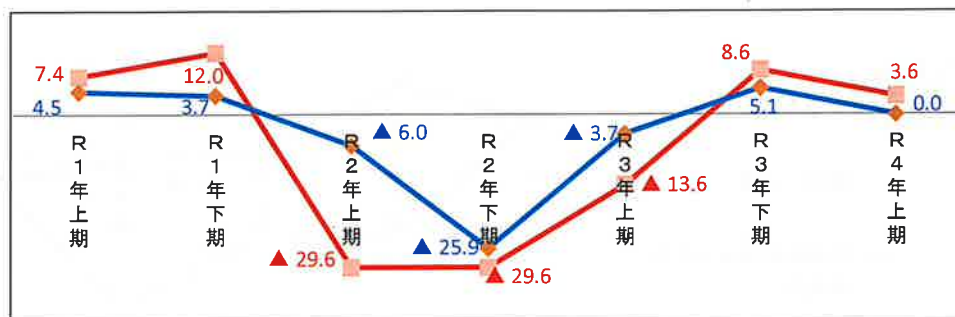
資金繰りDI値は、製造業で3.6(前期比▲5.0)、非製造業で▲5.0(前期比1.6)、全業種で▲2.3(前期比▲0.2)となった。製造業では、前期に続きプラス域を維持し改善しているが、非製造業では、未だマイナス域を脱せず、特に建設業、小売業、卸売業で悪化しており、厳しい状況が続いている。

※前期比とは、前回調査(令和3年12月実施)のDI値と今期を比較した増減です。

DI値の推移

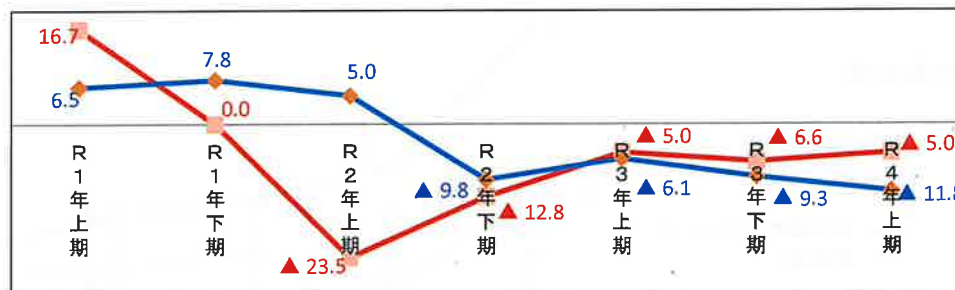
製造業

— 実際のDI値
— 前期調査時点での今期見通し



非製造業

— 実際のDI値
— 前期調査時点での今期見通し

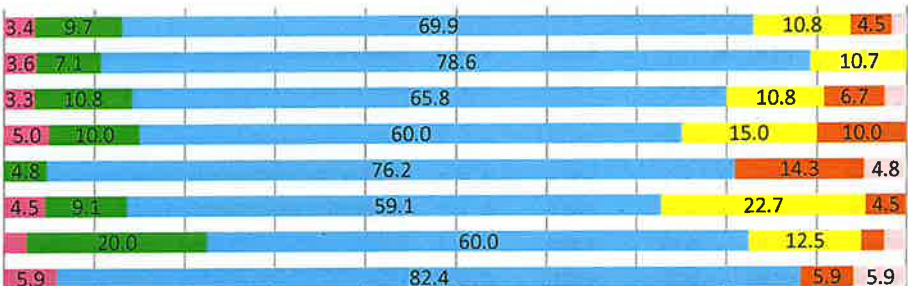


来期(2022年7月～12月)の見通しDI値

全業種	(見通し ▲ 2.3	今期比 0.0)
製造業	(見通し 0.0	今期比 ▲ 3.6)
非製造業	(見通し ▲ 3.3	今期比 1.7)
建設業	(見通し ▲ 10.0	今期比 0.0)
小売業	(見通し ▲ 9.5	今期比 0.0)
卸売業	(見通し ▲ 13.6	今期比 4.5)
サービス業	(見通し 7.5	今期比 5.0)
その他業	(見通し 0.0	今期比 ▲ 5.9)

(資金繰り)

(単位:%)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 好転 ■ やや好転 ■ 不変 ■ やや悪化 ■ 悪化 ■ 無回答

今期と比較した来期(2022年7月～12月)の見通し

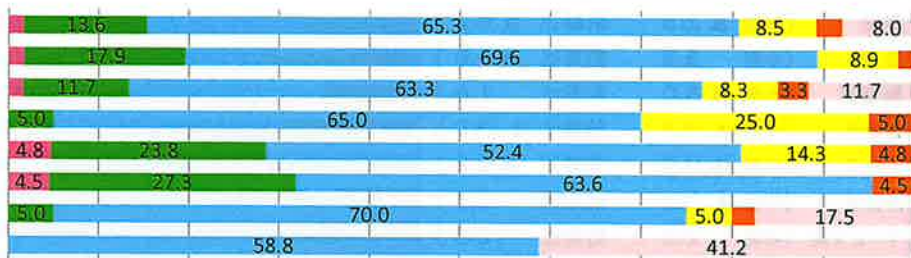
今期と比較した来期の見通しDI値は、製造業で▲3.6ポイント悪化の0.0、非製造業で1.7ポイント改善の▲3.3、全業種で▲2.3と見通している。非製造業で悪化の見通しとなり、今期と同様に、特に建設業、小売業、卸売業でマイナス値を脱せず、資金繰りは悪化の厳しい見通しとなった。

今期(2022年1月～6月)のDI値

全業種	(今期 ▲ 4.0	前期比 1.2)
製造業	(今期 ▲ 8.9	前期比 ▲ 7.2)
非製造業	(今期 ▲ 1.7	前期比 4.9)
建設業	(今期 25.0	前期比 20.0)
小売業	(今期 ▲ 9.5	前期比 ▲ 22.8)
卸売業	(今期 ▲ 27.3	前期比 6.0)
サービス業	(今期 2.5	前期比 15.0)
その他業	(今期 0.0	前期比 0.0)

(在庫)

(単位:%)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 過剰 ■ やや過剰 ■ 適正 ■ やや不足 ■ 不足 ■ 無回答

今期(2022年1月～6月)の状況

在庫DI値は、製造業で▲8.9(前期比▲7.2)、非製造業で▲1.7(前期比4.9)、全業種で▲4.0(前期比1.2)となった。

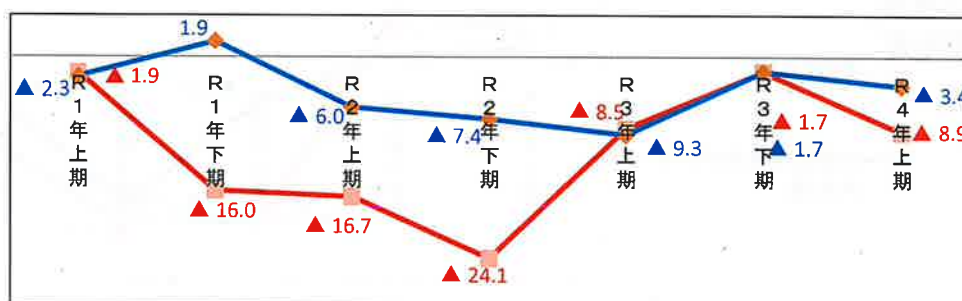
製造業では、前期比ともマイナスとなり在庫の過剰傾向が伺えた。非製造業では前期比プラスとなり改善が見受けられるが、マイナス域を脱しておらず、とりわけ小売業では前期比ともマイナスとなり、在庫の過剰傾向が続いている。

※前期比とは、前回調査(令和3年12月実施)のDI値と今期を比較した増減です。

DI値の推移

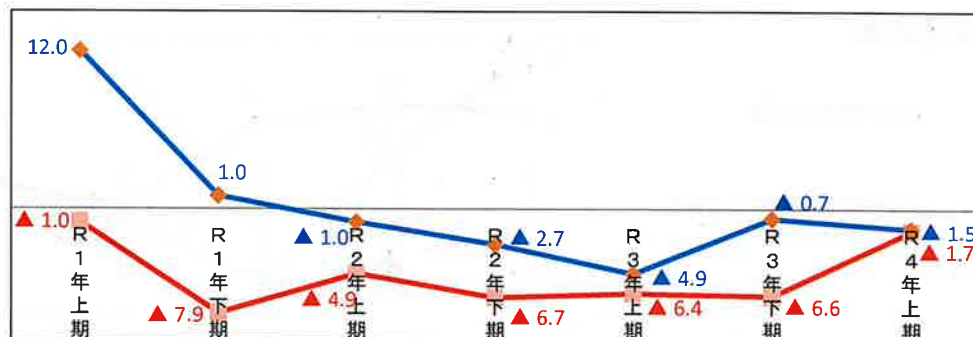
製造業

—●— 実際のDI値
—●— 前期調査時点での今期見通し



非製造業

—●— 実際のDI値
—●— 前期調査時点での今期見通し

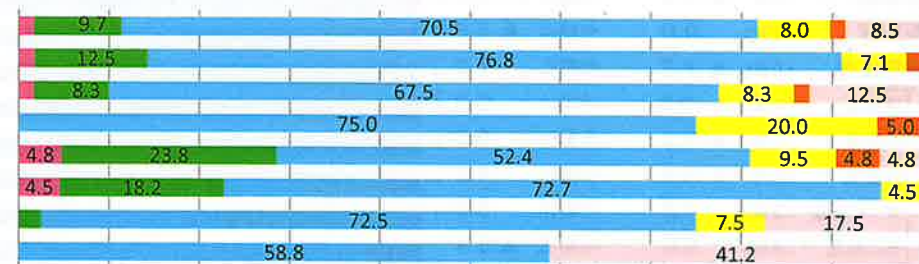


来期(2022年7月～12月)の見通しDI値

全業種	(見通し ▲ 1.7	今期比 2.3)
製造業	(見通し ▲ 5.4	今期比 3.6)
非製造業	(見通し 0.0	今期比 1.7)
建設業	(見通し 25.0	今期比 0.0)
小売業	(見通し ▲ 14.3	今期比 ▲ 4.8)
卸売業	(見通し ▲ 18.2	今期比 9.1)
サービス業	(見通し 5.0	今期比 2.5)
その他業	(見通し 0.0	今期比 0.0)

(在庫)

(単位:%)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 過剰 ■ やや過剰 ■ 適正 ■ やや不足 ■ 不足 ■ 無回答

今期と比較した来期(2022年7月～12月)の見通し

今期と比較した来期の見通しDI値は、製造業で3.6ポイント改善の▲5.4、非製造業で1.7ポイント改善の0.0、全業種で2.3ポイント改善の▲1.7と見通している。製造業では、今期比プラスとなるも見通しはマイナスとなり過剰傾向、非製造業での業種別では、今期と同様に小売業、卸売業でマイナスとなり、過剰傾向が続く見通しとなった。

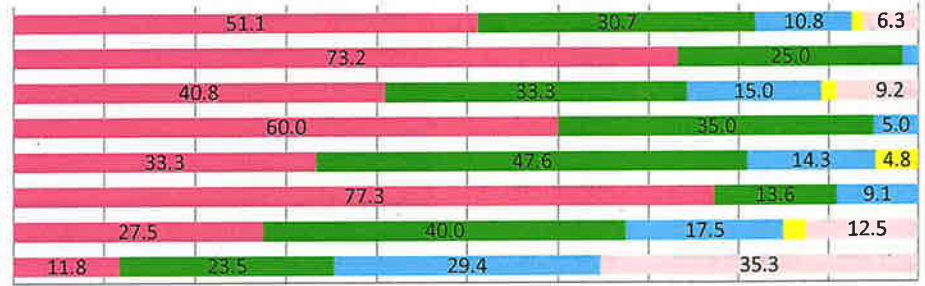
【仕入単価DI値】

今期(2022年1月～6月)のDI値

全業種	(今期 ▲80.7	前期比 ▲9.8)
製造業	(今期 ▲98.2	前期比 ▲10.3)
非製造業	(今期 ▲72.5	前期比 ▲10.8)
建設業	(今期 ▲95.0	前期比 0.0)
小売業	(今期 ▲76.2	前期比 ▲29.5)
卸売業	(今期 ▲90.9	前期比 ▲13.1)
サービス業	(今期 ▲65.0	前期比 ▲10.5)
その他業	(今期 ▲35.3	前期比 ▲3.7)

(仕入単価)

(単位:%)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 上昇 ■ やや上昇 ■ 不変 ■ やや低下 ■ 低下 ■ 無回答

今期(2022年1月～6月)の状況

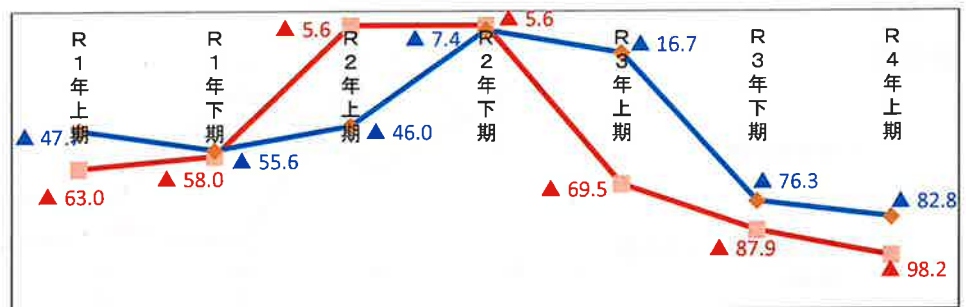
仕入単価DI値は、製造業で▲98.2(前期比▲10.3)、非製造業▲72.5(前期比▲10.8)、全業種で▲80.7(前期比▲9.8)となった。製造業、非製造業ともに、今期、前期比とも最大のマイナス値となり、仕入単価上昇による影響の大きさが伺える結果となった。

※前期比とは、前回調査(令和3年12月実施)のDI値と今期を比較した増減です。

DI値の推移

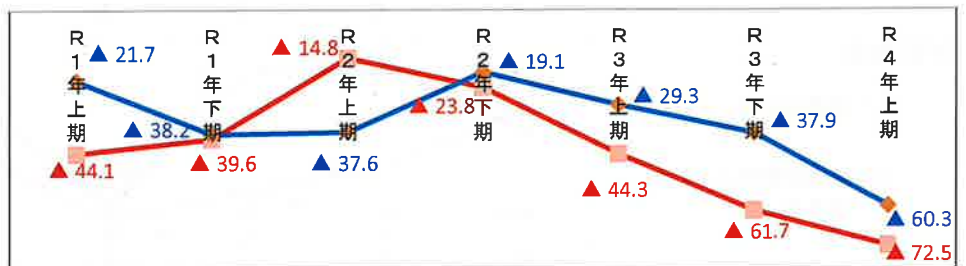
製造業

— 実際のDI値
— 前期調査時点での今期見通し



非製造業

— 実際のDI値
— 前期調査時点での今期見通し



来期(2022年7月～12月)の見通しDI値

全業種	(見通し ▲74.4	今期比 6.3)
製造業	(見通し ▲89.3	今期比 8.9)
非製造業	(見通し ▲67.5	今期比 5.0)
建設業	(見通し ▲65.0	今期比 30.0)
小売業	(見通し ▲76.2	今期比 0.0)
卸売業	(見通し ▲95.5	今期比 ▲4.5)
サービス業	(見通し ▲62.5	今期比 2.5)
その他業	(見通し ▲35.3	今期比 0.0)

(仕入単価)

(単位:%)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 上昇 ■ やや上昇 ■ 不変 ■ やや低下 ■ 低下 ■ 無回答

今期と比較した来期(2022年7月～12月)の見通し

今期と比較した来期の見通しDI値は、製造業で8.9ポイント改善の▲89.3、非製造業で5.0ポイント改善の▲67.5、全業種で6.3ポイント改善の▲74.4と見通している。製造業、非製造業の卸売業を除き今期比でプラスとなるも、見通しは全業種でマイナスとなり、今後も仕入単価の上昇による悪化傾向が続く非常に厳しい見通しとなった。

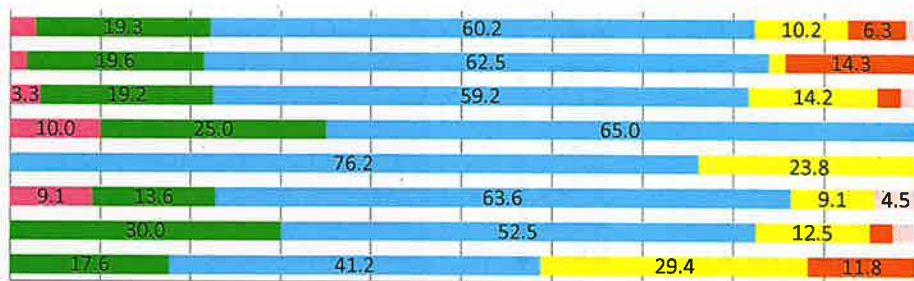
【 従業員数DI値 】

今期（2022年1月～6月）のDI値

全業種	（今期 5.7 前期比 2.7）
製造業	（今期 5.4 前期比 7.1）
非製造業	（今期 5.8 前期比 ▲0.1）
建設業	（今期 35.0 前期比 10.0）
小売業	（今期 ▲23.8 前期比 ▲10.5）
卸売業	（今期 13.6 前期比 ▲4.9）
サービス業	（今期 15.0 前期比 5.0）
その他業	（今期 ▲23.5 前期比 ▲13.0）

（従業員数）

（単位：%）



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 増加 ■ やや増加 ■ 不変 ■ やや減少 ■ 減少 ■ 無回答

今期（2022年1月～6月）の状況

従業員数DI値は、製造業で5.4（前期比7.1）、非製造業で5.8（前期比▲0.1）、全業種で5.7（前期比2.7）となった。製造業、非製造業ともプラスとなり、非製造業では小売業、その他業で前期比ともマイナスとなったが、全体としてプラスとなり、人手はやや増加傾向であることが伺えた。

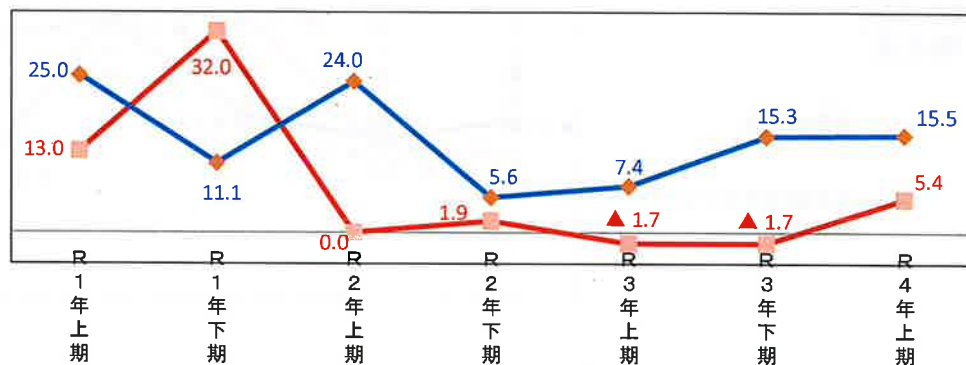
※前期比とは、前回調査（令和3年12月実施）のDI値と今期を比較した増減です。

DI値の推移

製造業

■ 実際のDI値

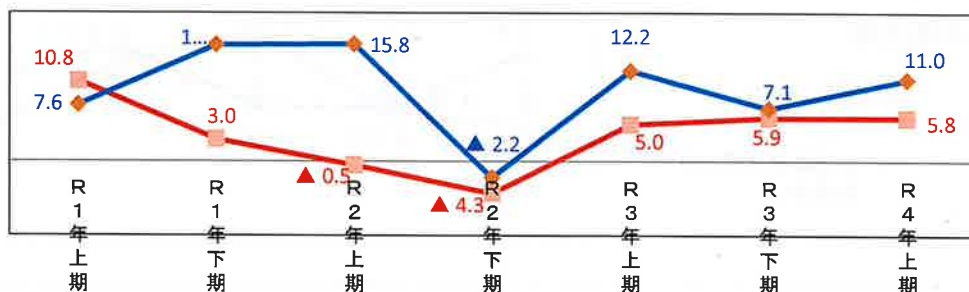
■ 前期調査時点での今期見通し



非製造業

■ 実際のDI値

■ 前期調査時点での今期見通し

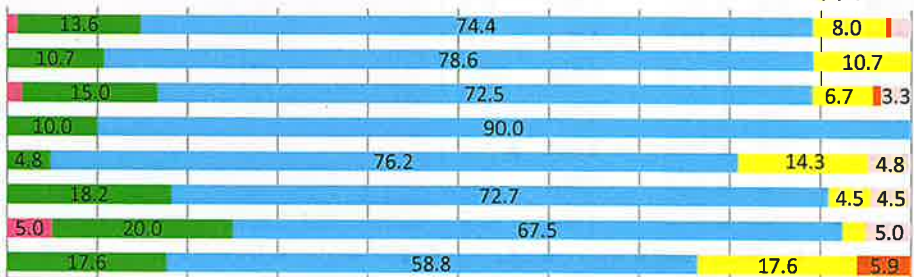


来期（2022年7月～12月）の見通しDI値

全業種	（見通し 6.3 今期比 0.6）
製造業	（見通し 0.0 今期比 ▲5.4）
非製造業	（見通し 9.2 今期比 3.3）
建設業	（見通し 10.0 今期比 ▲25.0）
小売業	（見通し ▲9.5 今期比 14.3）
卸売業	（見通し 13.6 今期比 0.0）
サービス業	（見通し 22.5 今期比 7.5）
その他業	（見通し ▲5.9 今期比 17.6）

（従業員数）

（単位：%）



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 増加 ■ やや増加 ■ 不変 ■ やや減少 ■ 減少 ■ 無回答

今期と比較した来期（2022年7月～12月）の見通し

今期と比較した来期の見通しDI値は、製造業で▲5.4ポイント下降の0.0、非製造業で3.3ポイント上昇の9.2、全業種では0.6ポイント上昇の6.3と見通している。全体として来期は上昇する見通しとなったが、非製造業のうち小売業、その他業で下降する見通しとなった。

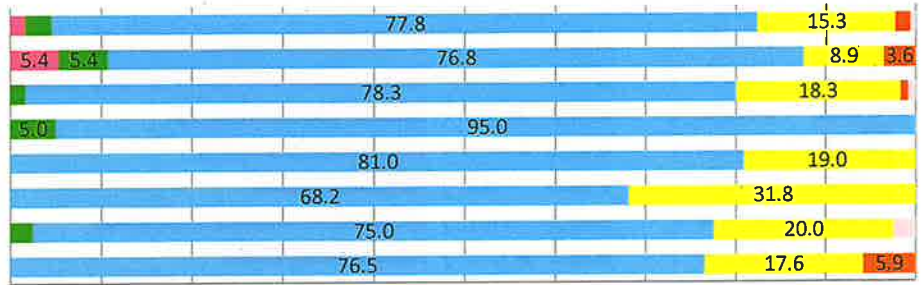
【設備DI値】

今期(2022年1月～6月)のDI値

全業種	(今期 12.5 前期比 2.6)
製造業	(今期 1.8 前期比 ▲12.5)
非製造業	(今期 17.5 前期比 9.2)
建設業	(今期 ▲5.0 前期比 ▲15.0)
小売業	(今期 19.0 前期比 19.0)
卸売業	(今期 31.8 前期比 13.6)
サービス業	(今期 17.5 前期比 5.0)
その他業	(今期 23.5 前期比 23.5)

(設備)

(単位:%)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 過剰 ■ やや過剰 ■ 適正 ■ やや不足 ■ 不足 ■ 無回答

今期(2022年1月～6月)の状況

設備DI値は、製造業で1.8(前期比▲12.5)、非製造業で17.5(前期比9.2)、全業種で12.5(前期比2.6)となった。製造業、非製造業では、建設業を除く全業種でプラスとなり、設備不足の傾向にあることが伺えた。

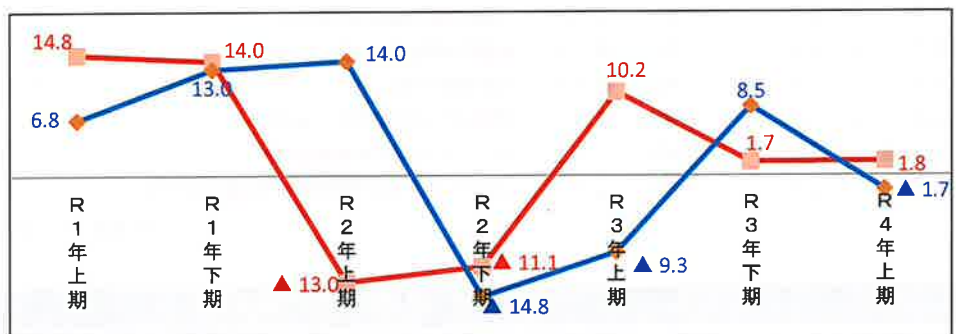
※前期比とは、前回調査(令和3年12月実施)のDI値と今期を比較した増減です。

DI値の推移

製造業

■ 実際のDI値

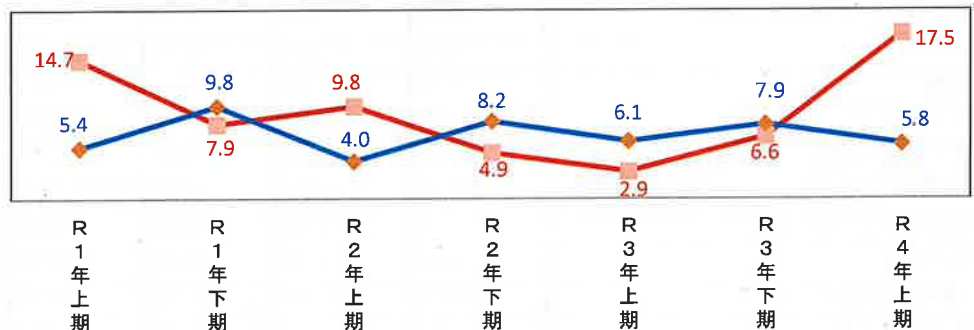
■ 前期調査時点での今期見通し



非製造業

■ 実際のDI値

■ 前期調査時点での今期見通し

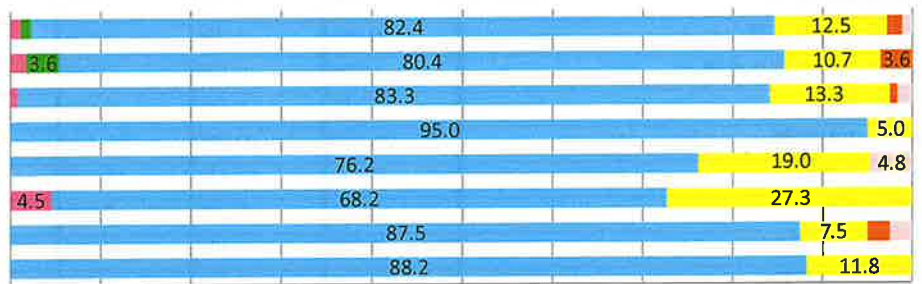


来期(2022年7月～12月)の見通しDI値

全業種	(見通し 11.9 今期比 ▲0.6)
製造業	(見通し 8.9 今期比 7.1)
非製造業	(見通し 13.3 今期比 ▲4.2)
建設業	(見通し 5.0 今期比 10.0)
小売業	(見通し 19.0 今期比 0.0)
卸売業	(見通し 22.7 今期比 ▲9.1)
サービス業	(見通し 10.0 今期比 ▲7.5)
その他業	(見通し 11.8 今期比 ▲11.8)

(設備)

(単位:%)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 過剰 ■ やや過剰 ■ 適正 ■ やや不足 ■ 不足 ■ 無回答

今期と比較した来期(2022年7月～12月)の見通し

今期と比べた来期の見通しDI値は、製造業で7.1ポイント上昇の8.9、非製造業で▲4.2ポイント低下の13.3、全業種で▲0.6ポイント下降の11.9と見通しており、製造業、非製造業で設備不足の見通しとなった。

【 新規設備投資 】

◆ 今期（2022年1月～6月）の新規設備投資を実施した割合



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 行った ■ 行っていない ■ 無回答

※前期比とは、前回調査（令和3年12月実施）のDI値と今期を比較した増減です。

◆ 来期（2022年7月～12月）の新規設備投資を計画している割合



■ 計画あり ■ 計画なし ■ 無回答

【 直面している課題 】

	製造業	非製造業	建設業	小売業	卸売業	サービス業	その他業
大企業の進出による競争の激化	0.0%	5.0%	0.0%	4.8%	4.5%	5.0%	11.8%
需要の停滞	17.9%	15.0%	10.0%	③ 23.8%	② 27.3%	5.0%	17.6%
為替差損	7.1%	3.3%	0.0%	4.8%	4.5%	5.0%	0.0%
売上単価の低下	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%
新規参入業者の増加	1.8%	2.5%	5.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%
製品（消費者・利用者等）ニーズの変化への対応	7.1%	5.8%	0.0%	19.0%	4.5%	2.5%	5.9%
生産設備の不足・老朽化	17.9%	6.7%	5.0%	0.0%	0.0%	10.0%	17.6%
原材料の不足	12.5%	9.2%	30.0%	0.0%	13.6%	5.0%	0.0%
仕入・原材料単価の上昇	① 57.1%	① 45.8%	① 70.0%	① 42.9%	① 63.6%	② 32.5%	③ 29.4%
下請負単価の上昇	1.8%	5.0%	② 25.0%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%
官公需要の停滞	1.8%	3.3%	5.0%	0.0%	9.1%	0.0%	5.9%
取引条件の悪化	0.0%	1.7%	0.0%	9.5%	0.0%	0.0%	0.0%
金利負担の増加	0.0%	1.7%	5.0%	0.0%	4.5%	0.0%	0.0%
事業資金の借入難	0.0%	1.7%	5.0%	0.0%	0.0%	2.5%	0.0%
購買力の他地域への流出	1.8%	0.8%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%
在庫の過剰	3.6%	2.5%	0.0%	0.0%	9.1%	2.5%	0.0%
価格への転嫁難	② 26.8%	10.8%	15.0%	4.8%	② 27.3%	5.0%	5.9%
人件費の増加	5.4%	12.5%	15.0%	4.8%	0.0%	12.5%	② 35.3%
設備の過剰	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
代金回収の悪化	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
駐車場の確保難	1.8%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%
店舗・施設の老朽化	0.0%	7.5%	0.0%	14.3%	4.5%	10.0%	5.9%
従業員・熟練技術者の確保難	19.6%	② 26.7%	② 25.0%	14.3%	② 27.3%	① 35.0%	23.5%
燃料費（電気料金を含む）の高騰	③ 25.0%	15.0%	20.0%	19.0%	9.1%	12.5%	17.6%
コロナの影響	5.4%	③ 25.8%	② 25.0%	② 33.3%	9.1%	③ 25.0%	① 41.2%
ウクライナ情勢の影響	8.9%	7.5%	15.0%	4.8%	9.1%	5.0%	5.9%
その他	3.6%	2.5%	0.0%	0.0%	4.5%	2.5%	5.9%

新型コロナウイルスに関する影響

	影響出ている	今後影響出る懸念	影響出していない	わからない
非製造業	63%	10%	19%	8%
製造業	50%	9%	29%	13%

<具体的な影響>

- ・上海ロックダウンによる半導体不足、製品等の入手難
- ・世界的な物流混乱
- ・化粧品等の売上への影響
- ・従業員のコロナ感染による影響
- ・外出自粛による売上減少

原油高、原材料高、物価高、円安の影響

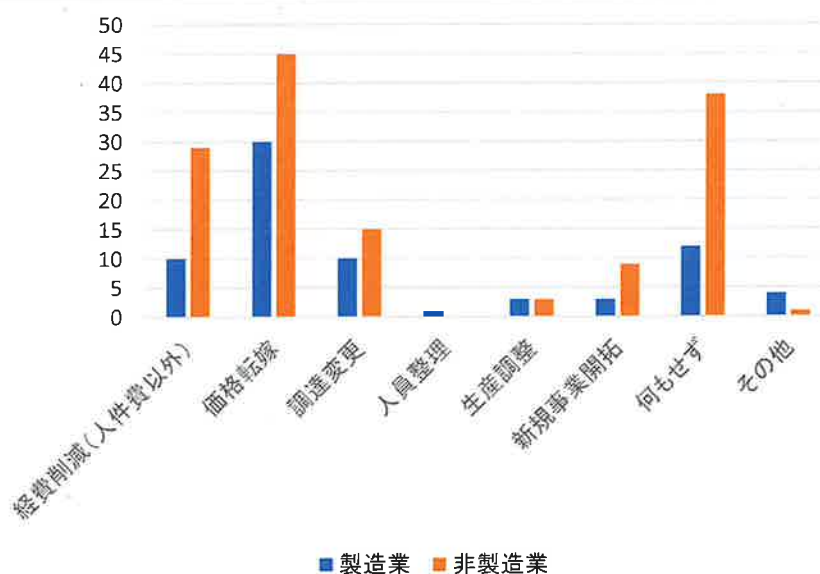
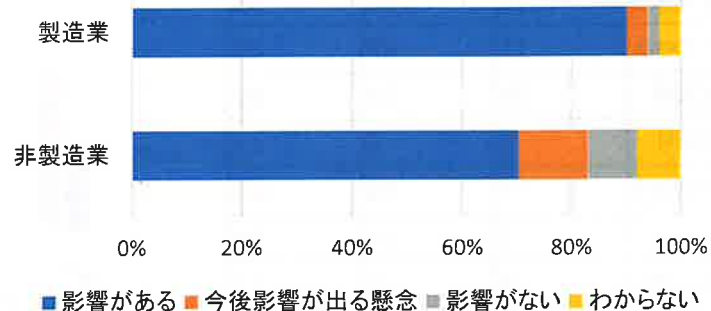
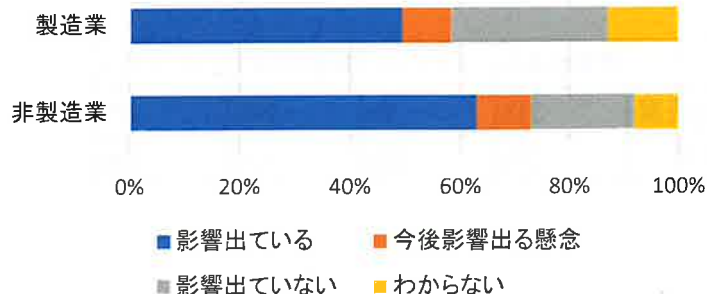
	影響がある	今後影響が出る懸念	影響がない	わからない
非製造業	71%	13%	9%	8%
製造業	91%	4%	2%	4%

<具体的な要因>

- ・仕入値の高騰
- ・輸入品の高騰及び為替の影響
- ・輸入品不足(部品類)
- ・ガソリン代・電気代・ガス代・運送費など
- ・プラスチック製品の価格高騰、入手難

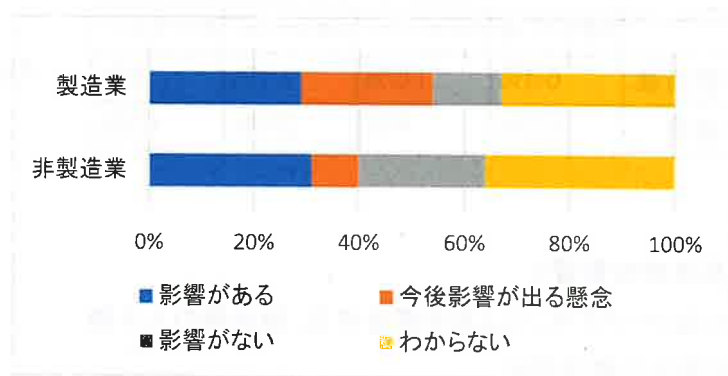
原油高、原材料高、物価高、円安への対策

	製造業	非製造業	計
経費削減(人件費以外)	10	29	39
価格転嫁	30	45	75
調達変更	10	15	25
人員整理	1	0	1
生産調整	3	3	6
新規事業開拓	3	9	12
何もせず	12	38	50
その他	4	1	5
	73	140	213



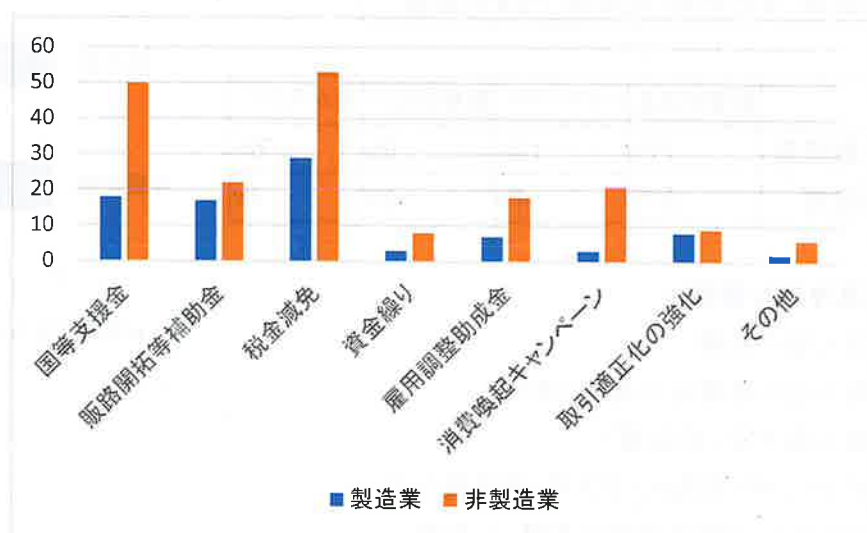
ウクライナ情勢の影響

	影響がある	今後影響が出る懸念	影響がない	わからない
非製造業	31%	9%	24%	36%
製造業	29%	25%	13%	33%



期待している支援策

	製造業	非製造業	計
国等支援金	18	50	68
販路開拓等補助金	17	22	39
税金減免	29	53	82
資金繰り	3	8	11
雇用調整助成金	7	18	25
消費喚起キャンペーン	3	21	24
取引適正化の強化	8	9	17
その他	2	6	8
	87	187	274



参考資料

小規模事業者（従業員：製造業・建設業は20人以下、商業・サービス業等は5人以下）

※宿泊業および娯楽業は20人以下

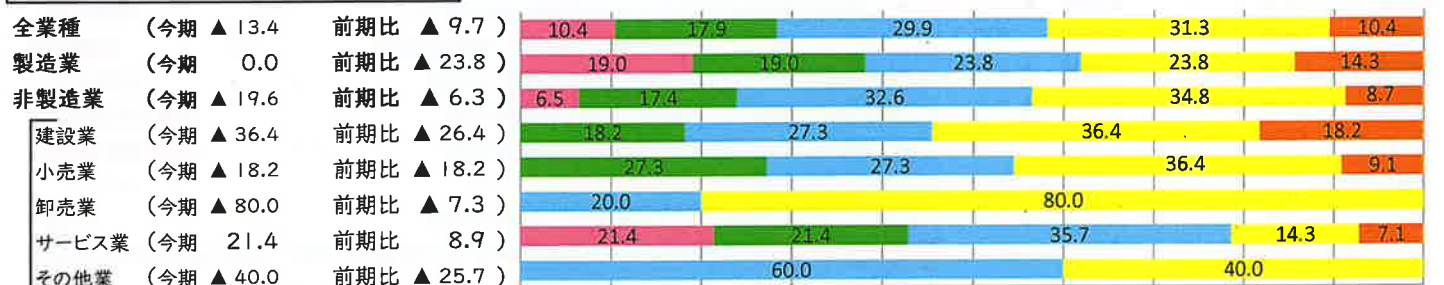
景況調査結果

- 目的：当地域における景気実態を把握するとともに、当商工会議所事業活動の指針とする。
- 調査対象期間：2022年1月1日から2022年6月30日（2022年（令和4年）上期）
- 調査実施期間：2022年7月5日から2022年7月29日
- 調査方法：郵送によるアンケート方式
- 調査対象：当所管内会員事業所の小規模企業者（従業員数が製造業・建設業は20人以下、商業・サービス業等は5人以下） 336 事業所 ※宿泊業および娯楽業は20人以下
- 回答数：67（回答率 19.9%）

従業員数		0～5人	6～20人	合計
業種	製造業	6	15	21
	建設業	5	6	11
	小売業	11		11
	卸売業	5		5
	サービス業	14		14
	その他業	4	1	5
合計		45	22	67

業況DI

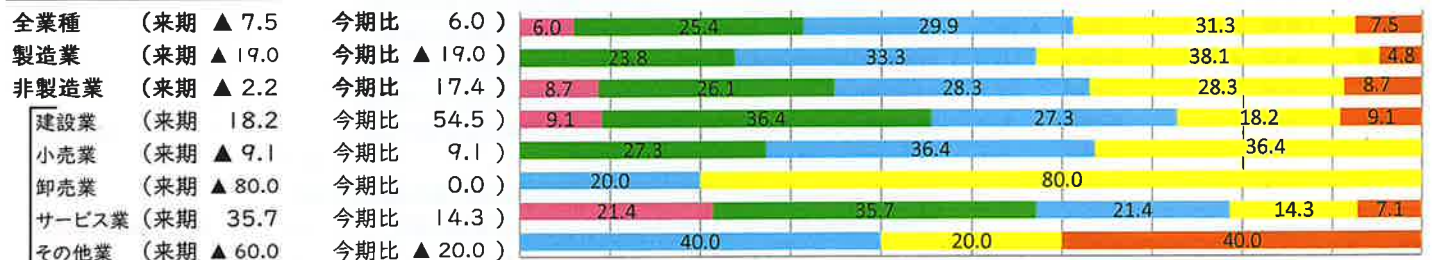
今期（2022年1月～6月）のDI値



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■好転 ■やや好転 ■不変 ■やや悪化 ■悪化

来期（2022年7月～12月）の見通しDI



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■好転 ■やや好転 ■不変 ■やや悪化 ■悪化 ■無回答

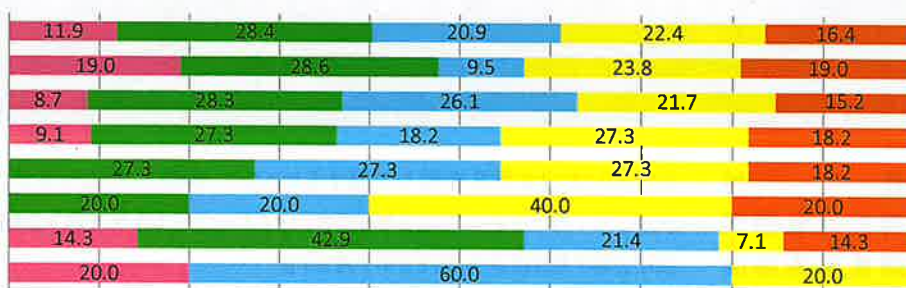
売上DI

今期(2022年1月~6月)のDI値

(売上)

(単位:%)

全業種	(今期 1.5 前期比 ▲1.0)
製造業	(今期 4.8 前期比 ▲14.2)
非製造業	(今期 0.0 前期比 3.3)
建設業	(今期 ▲9.1 前期比 ▲19.1)
小売業	(今期 ▲18.2 前期比 ▲11.9)
卸売業	(今期 ▲40.0 前期比 14.5)
サービス業	(今期 35.7 前期比 23.2)
その他業	(今期 0.0 前期比 ▲28.6)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 増加 ■ やや増加 ■ 不変 ■ やや減少 ■ 減少

来期(2022年7月~12月)の見通しDI

全業種	(来期 6.0 今期比 4.5)
製造業	(来期 9.5 今期比 4.8)
非製造業	(来期 4.3 今期比 4.3)
建設業	(来期 18.2 今期比 27.3)
小売業	(来期 ▲18.2 今期比 0.0)
卸売業	(来期 ▲40.0 今期比 0.0)
サービス業	(来期 42.9 今期比 7.1)
その他業	(来期 ▲40.0 今期比 ▲40.0)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 増加 ■ やや増加 ■ 不変 ■ やや減少 ■ 減少 ■ 無回答

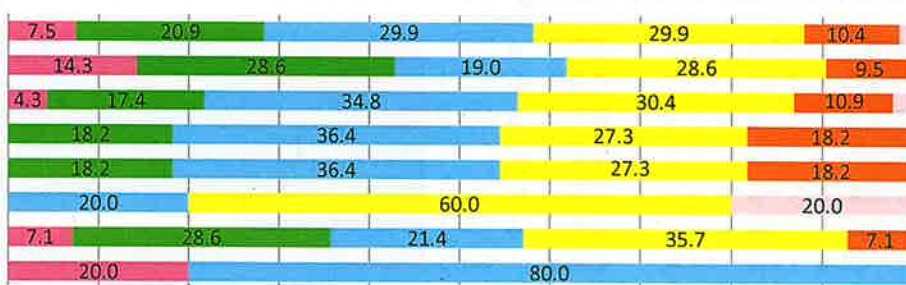
採算DI

今期(2022年1月~6月)のDI値

(採算)

(単位:%)

全業種	(今期 ▲11.9 前期比 ▲3.3)
製造業	(今期 4.8 前期比 0.0)
非製造業	(今期 ▲19.6 前期比 ▲6.3)
建設業	(今期 ▲27.3 前期比 ▲7.3)
小売業	(今期 ▲27.3 前期比 ▲21.0)
卸売業	(今期 ▲60.0 前期比 ▲32.7)
サービス業	(今期 ▲7.1 前期比 ▲0.8)
その他業	(今期 20.0 前期比 34.3)

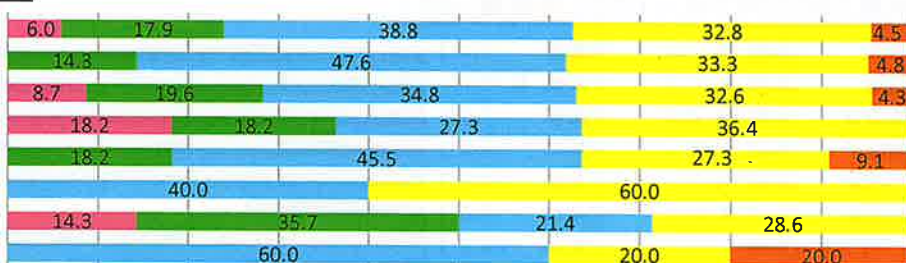


※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 好転 ■ やや好転 ■ 不変 ■ やや悪化 ■ 悪化 ■ 無回答

来期(2022年7月~12月)の見通しDI

全業種	(来期 ▲13.4 今期比 ▲1.5)
製造業	(来期 ▲23.8 今期比 ▲28.6)
非製造業	(来期 ▲8.7 今期比 10.9)
建設業	(来期 0.0 今期比 27.3)
小売業	(来期 ▲18.2 今期比 9.1)
卸売業	(来期 ▲60.0 今期比 0.0)
サービス業	(来期 21.4 今期比 28.6)
その他業	(来期 ▲40.0 今期比 ▲60.0)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 好転 ■ やや好転 ■ 不変 ■ やや悪化 ■ 悪化 ■ 無回答

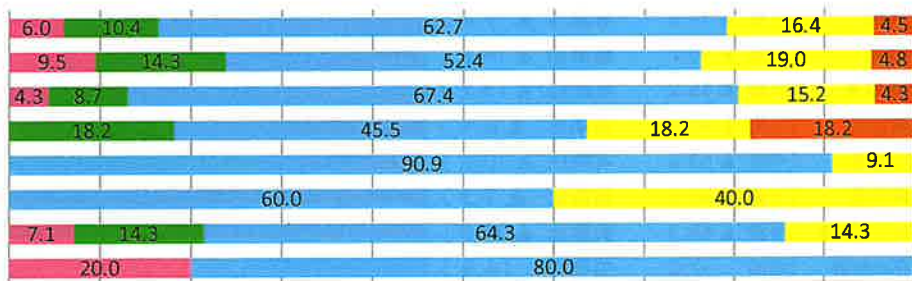
資金繰りDI

今期(2022年1月~6月)のDI値

全業種	(今期 ▲ 4.5	前期比 0.4)
製造業	(今期 0.0	前期比 ▲ 9.5)
非製造業	(今期 ▲ 6.5	前期比 3.5)
建設業	(今期 ▲ 18.2	前期比 ▲ 28.2)
小売業	(今期 ▲ 9.1	前期比 ▲ 2.8)
卸売業	(今期 ▲ 40.0	前期比 ▲ 3.6)
サービス業	(今期 7.1	前期比 32.1)
その他業	(今期 20.0	前期比 ▲ 8.6)

(資金繰り)

(単位:%)

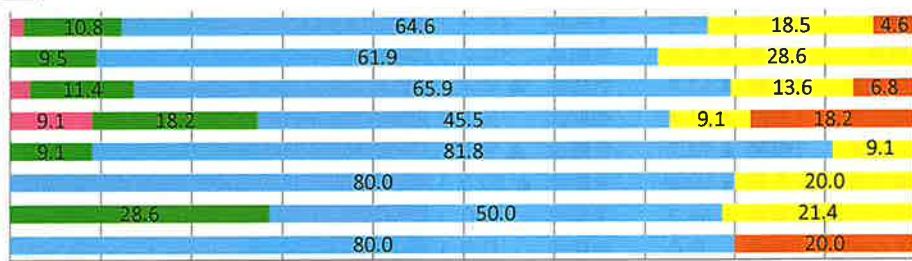


※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 好転 ■ やや好転 ■ 不変 ■ やや悪化 ■ 悪化

来期(2022年7月~12月)の見通しDI

全業種	(来期 ▲ 10.8	今期比 ▲ 6.3)
製造業	(来期 ▲ 19.0	今期比 ▲ 19.0)
非製造業	(来期 ▲ 6.8	今期比 ▲ 0.3)
建設業	(来期 0.0	今期比 18.2)
小売業	(来期 0.0	今期比 9.1)
卸売業	(来期 ▲ 20.0	今期比 20.0)
サービス業	(来期 7.1	今期比 0.0)
その他業	(来期 ▲ 20.0	今期比 ▲ 40.0)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 好転 ■ やや好転 ■ 不変 ■ やや悪化 ■ 悪化

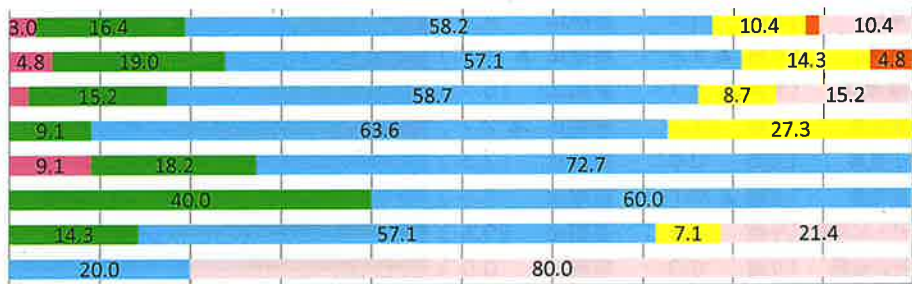
在庫DI

今期(2022年1月~6月)のDI値

全業種	(今期 ▲ 7.5	前期比 1.1)
製造業	(今期 ▲ 4.8	前期比 ▲ 4.8)
非製造業	(今期 ▲ 8.7	前期比 3.0)
建設業	(今期 18.2	前期比 28.2)
小売業	(今期 ▲ 27.3	前期比 ▲ 21.0)
卸売業	(今期 ▲ 40.0	前期比 ▲ 12.7)
サービス業	(今期 ▲ 7.1	前期比 5.4)
その他業	(今期 0.0	前期比 0.0)

(在庫)

(単位:%)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 過剰 ■ やや過剰 ■ 適正 ■ やや不足 ■ 不足 ■ 無回答

来期(2022年7月~12月)の見通しDI

全業種	(来期 ▲ 32.8	今期比 ▲ 25.4)
製造業	(来期 ▲ 95.2	今期比 ▲ 90.5)
非製造業	(来期 ▲ 4.3	今期比 4.3)
建設業	(来期 27.3	今期比 9.1)
小売業	(来期 ▲ 27.3	今期比 0.0)
卸売業	(来期 ▲ 40.0	今期比 0.0)
サービス業	(来期 0.0	今期比 7.1)
その他業	(来期 0.0	今期比 0.0)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 過剰 ■ やや過剰 ■ 適正 ■ やや不足 ■ 不足 ■ 無回答

仕入単価DI

今期(2022年1月~6月)のDI値

(仕入単価)

(単位:%)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

来期(2022年7月~12月)の見通しDI



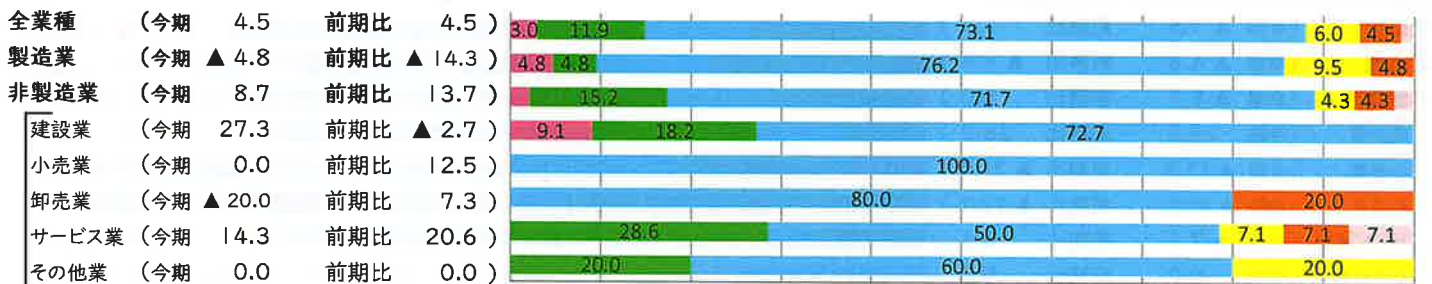
※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

従業員数DI

今期(2022年1月~6月)のDI値

(従業員数)

(単位:%)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

来期(2022年7月~12月)の見通しDI



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

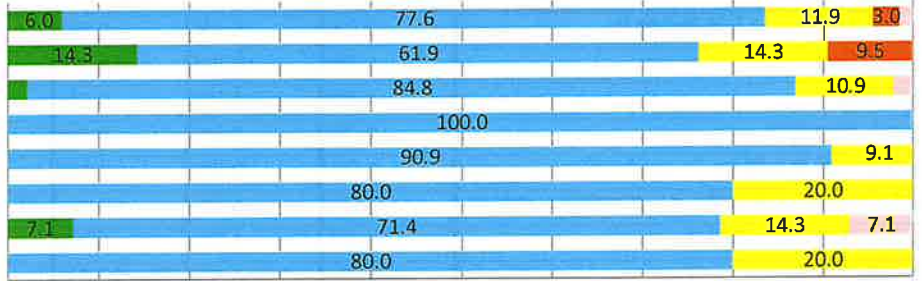
設備DI

今期(2022年1月~6月)のDI値

(設備)

(単位:%)

全業種	(今期 9.0 前期比 1.6)
製造業	(今期 9.5 前期比 ▲4.8)
非製造業	(今期 8.7 前期比 0.4)
建設業	(今期 0.0 前期比 ▲10.0)
小売業	(今期 9.1 前期比 9.1)
卸売業	(今期 20.0 前期比 1.8)
サービス業	(今期 7.1 前期比 ▲5.4)
その他業	(今期 20.0 前期比 20.0)

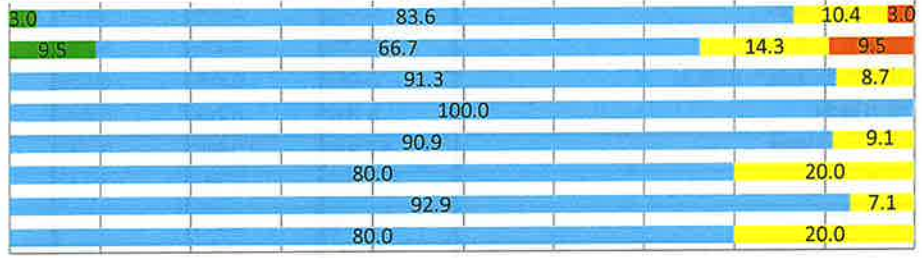


※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 過剰 ■ やや過剰 ■ 適正 ■ やや不足 ■ 不足 ■ 無回答

来期(2022年7月~12月)の見通しDI

全業種	(来期 10.4 今期比 1.5)
製造業	(来期 14.3 今期比 4.8)
非製造業	(来期 8.7 今期比 0.0)
建設業	(来期 0.0 今期比 0.0)
小売業	(来期 9.1 今期比 0.0)
卸売業	(来期 20.0 今期比 0.0)
サービス業	(来期 7.1 今期比 0.0)
その他業	(来期 20.0 今期比 0.0)



※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 過剰 ■ やや過剰 ■ 適正 ■ やや不足 ■ 不足 ■ 無回答

新規設備投資

◆今期(2022年1月~6月)の新規設備投資を実施した割合

全業種	(今期 23.9% 前期比 ▲1.6)
製造業	(今期 47.6% 前期比 35.1)
非製造業	(今期 13.0% 前期比 ▲17.0)
建設業	(今期 27.3% 前期比 ▲10.2)
小売業	(今期 0.0% 前期比 ▲25.0)
卸売業	(今期 0.0% 前期比 0.0)
サービス業	(今期 14.3% 前期比 ▲10.7)
その他業	(今期 20.0% 前期比 ▲34.5)

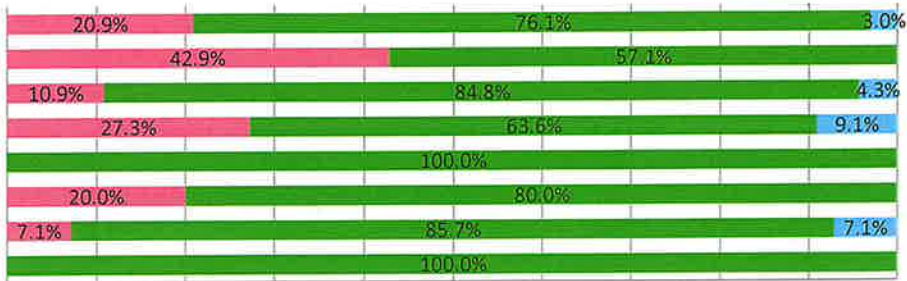


※DI値は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ数値と一致しない場合があります。

■ 行った ■ 行っていない ■ 無回答

◆来期(2022年7月~12月)の新規設備投資を計画している割合

全業種	(来期 20.9% 今期比 ▲3.0)
製造業	(来期 42.9% 今期比 ▲4.8)
非製造業	(来期 10.9% 今期比 ▲2.2)
建設業	(来期 27.3% 今期比 0.0)
小売業	(来期 0.0% 今期比 0.0)
卸売業	(来期 20.0% 今期比 20.0)
サービス業	(来期 7.1% 今期比 ▲7.1)
その他業	(来期 0.0% 今期比 ▲20.0)



■ 計画あり ■ 計画なし ■ 無回答

直面している課題

	製造業	非製造業	建設業	小売業	卸売業	サービス業	その他業
大企業の進出による競争の激化	0.0%	6.5%	0.0%	9.1%	0.0%	7.1%	20.0%
需要の停滞	14.3%	15.2%	18.2%	18.2%	20.0%	7.1%	20.0%
為替差損	4.8%	2.2%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%
売上単価の低下	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%
新規参入業者の増加	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
製品（消費者・利用者等）ニーズの変化への対応	4.8%	6.5%	0.0%	② 27.3%	0.0%	0.0%	0.0%
生産設備の不足・老朽化	19.0%	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	20.0%
原材料の不足	14.3%	6.5%	③ 27.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
仕入・原材料単価の上昇	① 28.6%	① 39.1%	① 54.5%	① 36.4%	① 80.0%	① 28.6%	0.0%
下請負単価の上昇	0.0%	4.3%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
官公需要の停滞	4.8%	2.2%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
取引条件の悪化	0.0%	4.3%	0.0%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%
金利負担の増加	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%
事業資金の借入難	0.0%	2.2%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
購買力の他地域への流出	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
在庫の過剰	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
価格への転嫁難	② 23.8%	10.9%	9.1%	0.0%	② 40.0%	14.3%	0.0%
人件費の増加	4.8%	4.3%	9.1%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%
設備の過剰	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
代金回収の悪化	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
駐車場の確保難	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
店舗・施設の老朽化	0.0%	13.0%	0.0%	18.2%	0.0%	21.4%	20.0%
従業員・熟練技術者の確保難	① 28.6%	③ 21.7%	② 36.4%	18.2%	0.0%	① 28.6%	0.0%
燃料費（電気料金を含む）の高騰	19.0%	6.5%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	20.0%
コロナの影響	4.8%	② 23.9%	18.2%	② 27.3%	20.0%	① 28.6%	20.0%
ウクライナ情勢の影響	4.8%	13.0%	9.1%	0.0%	20.0%	7.1%	① 60.0%
その他	4.8%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%